

フィリピン最後の藁ぶき屋根の小学校が、台風で校舎が崩壊しました。

緊急:プレハブ校舎の設置にご協力をお願いします!

サンタマルタ小学校はフィリピン最後の藁ぶき屋根の小学校でしたが、今年の台風で校舎が崩壊しました。この学校に通う児童たちは近隣の教会や空き家に雨風がしのげる場所を見つけて、窮屈な環境での授業を強いられています。



生徒数140人、藁ぶき屋根の校舎は3部屋を1年生から6年生が教室を前後で分けて、2つの学年が1部屋で別々の授業を行っていました。そんな不便の中でも、子供たちは笑顔でした。その理由は簡単です。この小学校は、遠い本校に片道1時間歩いて通っていた児童の父兄たちがもっと近い場所で学習できるようにと、手弁当で作

った校舎だったからです。これまで片道1時間かけて通っていたことを思えば、多少の窮屈さは問題ではありませんでした。

なぜ、この小学校だけが藁ぶき屋根の竹づくりの校舎のままだったのか?それは、サンタマルタ小学校が分校であるため、独自の予算がなく先生たちも本校から派遣されていました。本校ですら十分な施設ではない上に、さらに新しい校舎を作るためには何百万円もの予算が必要でした。新校舎の建設は教育省と市行政の役目ですが、この分校ができてから5年以上が経過した現在も財政難を理由に具体的な計画は示されず、現状維持をするのみでした。そんな中で2度の台風直撃を受けて、この手作りの藁ぶき屋根の校舎は崩壊しました。この事態でも、教育相と行政は新校舎の建設予算は捻出ができない、との判断をしています。もう見てもらえません。我々は行動します。

プレハブ校舎を建てる予算60万円を集めています。
私たちと一緒に小学校の校舎を作りませんか?

サンタマルタ小学校とパラウィッグ市教育省との連携事業になります。3万円以上の寄付・カンパには、サンタマルタ小学校からの感謝状が贈られます。10万円以上の寄付・カンパには小学校の校舎の柱にお名前を記載できます。詳細はメールにてお問合せください。 nekko.cfp@gmail.com



シンプルで最小限のプレハブ校舎で、6教室分を作りたいと考えています

フェイスブックとブログに日々の活動の様子を載せています。是非、閲覧してください。

“フィリピン、貧しい母子のための診療所”の日常は…

フェイスブックにて公開しています。日本人限定での公開です。日本人であれば誰でも友達申請をして頂けます。「とみたえりこ」とひらがなで検索、もしくは左のQRコードから。



アエタ族女性の“絆サロン”とリモート植林「センチュリーツリー・プロジェクト」…

フェイスブックにて公開しています。アエタ族女性たちに新しい生き方として美容師を育成しています。日本の支援者様と連携して、リモート植林を実施しています。「Kazuya Tomita」とローマ字で検索、もしくは左のQRコードから。



皆さまのご支援に感謝いたします。賛助会員の皆さまに感謝いたします。

NEKKOは医療支援、少数民族支援、植林・森林保全事業、生計向上事業、女性の自立支援、学校教育の支援などの独自プログラムを長年にわたって実践しています。また日本からの現地訪問も積極的に受け入れて、誰でも参加できる活動を心がけています。NEKKOの活動は、皆様からの会費、支援、寄付によって運営されています。多くの方々のお問い合わせにより、**ネットバンキングにも対応できるようになりました。**下記の振込先の情報をご確認ください。ゆうちょの当座預金口座ですのでご注意ください。皆さまのご理解とご協力に心より感謝申し上げます。

寄付金、義捐金を随時受け付けています。

郵便局のゆうちょです!

★会員になってください。★賛助会員を募集しています。(年会費)

個人…5,000円 企業…10,000円

店名	店番	記号	番号	預金種目	口座番号	振込先
099	099	0098-0	179028	当座預金	0179028	CFP



フィリピン、貧しい母子のための診療所/少数民族支援事業/植林事業・お知らせ等会報在中

三木郵便局

料金別納郵便

ゆうメール

特定非営利活動法人 NEKKO

〒673-0433 兵庫県三木市福井 2093-16
Mangahan Resettlement, Brgy: Mangan-vaca,
Subic, Zambales, Philippines
☎0794-60-2052 国際電話 63-919-967-7771
Email: nekko.cfp@gmail.com
ブログ: <https://ameblo.jp/erikobarnabas/>

クリスマスには間に合いませんでしたが、アエタ族の子供たちが一生懸命にクリスマスカードを作ってくれました。



今年は年末進行が遅れに遅れたため、いつもはクリスマス前にはお届けできるはずの会報の発送が間に合いませんでした。本当に申し訳ありません。もう2024年になってしまいましたが、皆様からの日頃からの支援とご協力に「ありがとう!」の気持ちを込めてアエタ族の子供たちが作成してくれたクリスマスカードを同封しています。初めて触る色鮮やかなポスターカラーに子供たちも大喜びでした。このクリスマスカードは子供たちの指で描いた、同じものが二つとない小さなアート作品となっています。季節外れのクリスマスカードと会報になりましたが、受け取って頂けますと幸いです。

支援者の皆様へ、2023年のご支援に感謝いたします。ありがとうございました。そして2024年も共に良い活動が続けられますように、心から祈っています。

100年後もそこにある森林を育てるリモート植林「センチュリーツリープロジェクト」に参加しませんか?

「センチュリーツリー・プロジェクト」は、日本に居るあなたとフィリピンのアエタ族の仲間が、リモートで植林を実施するプロジェクトです。100年後もその場所にある、大木に育つ、そんな環境で椰子の苗木を植えています。日本に居ながら地球環境に寄与できる、個人レベルで二酸化炭素の削減に有効打を出せる、具体的な成果が見えるSDG'sの活動、もっと簡単に緑化事業に参加出来る、とてもシンプルな活動です。しかし植えた苗木は世紀を跨ぐ樹齢100年以上の大木、センチュリーツリーに育ちます。日本の苗木購入者と地主が苗木の共同オーナーになります。苗木を買うのはあなた、それを植えるのは地主です。苗木を植える様子の動画、植えた後に苗木の持ち主となるアエタ族の仲間からの動画メッセージ、写真、グーグルマップで現場の位置を確認できる座標情報をお届けしています。フィリピンに貴方の苗木が育っています。10年後には実が成り、収穫ができます。それは育てた人と貴方の果実です。いつか、この場所へ来て自分で収穫した実を味わう、なんてことも可能です。

参加の方法は簡単です。この会報に同封した郵便局の振込用紙に、あなたの連絡先を記入して参加費用の苗木1本分2000円(もちろん何本でも可能です!)を振り込んでください。連絡方法はメールとメッセージ、葉書のみになりますが、寄付用紙の余白にいずれかを記入してください。担当者が直接連絡をいたします。それまでしばらくお待ち下さい。

メールの場合は、kazuya1999@gmail.com まで。

それ以外に下記フェイスブックでKazuya Tomitaにコメントやメッセージで参加をお伝え頂く方法もあります。個別に相談します。



あなたも樹齢100年の大木を育てるプロジェクトに参加しませんか?

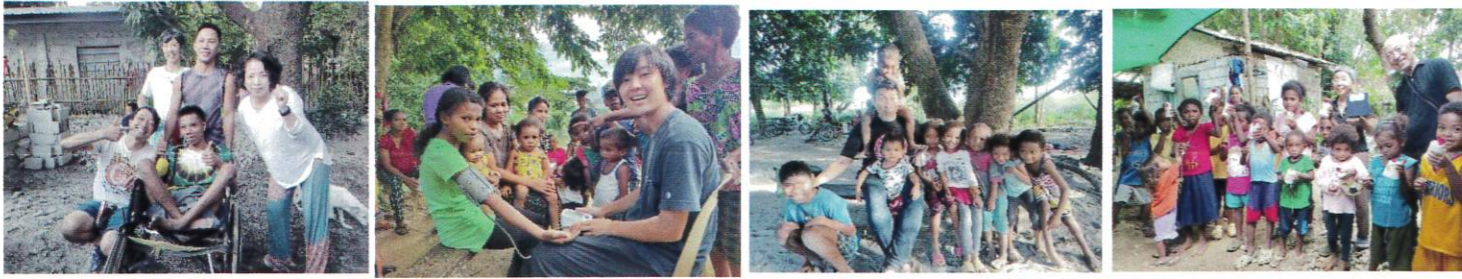
私たちの活動現場を訪問しませんか？3泊4日6万円(航空運賃を含まない)から実現できます！

長かったコロナ禍、フィリピンは3年以上も国境封鎖を続けました。その間も私たちは日本へ帰国せず、現場での支援活動を続けていました。そして今のフィリピンは観光ビザが解禁になり、世界中から大勢の観光客が戻っています。ワクチン未接種の人でも、以前と同じように誰でも容易に入国できるようになりました。マスク着用の義務があるのは、病院や高齢者施設に限定されています。すでに、フィリピンではコロナ騒動は終息しています。ようやく声を大きくして言えます。“私たちの活動現場に遊びに来ませんか？”

現在、私たちは現地訪問に関する新事業を計画中です。この**3泊4日で6万円**からは、今季限りになる可能性が高いです。もちろん、最低金額の場合は活動現場やできること、宿泊宿が限定されますが、それでも十分に刺激的な体験ができます。これ以外にも、様々な形で現地訪問のアレンジを致します。今月は最長12泊13日というゲストのアレンジをしています。滞在日程や金額、行動内容、移動する場所などにもよりますが、ゲストのご希望を聞いて、可能な限り楽しく、刺激的なプログラムを組み立てます。

難しく考える必要はありません。ただ遊びに行きたい、アエタ族の村人と出たい、貧しい人々と遊びたい、患者さんのために尽くしたい、植林をしたい、国際ボランティアに参加してみたい、そんな単純な理由で良いのです。普通の旅行とは違って多くの学びある体験ができると信じています。

詳細は個別に相談をしますので、まずは気軽にメールをください。nekkc.cfp@gmail.com kazuya1999@gmail.com



支援物資についてのお礼とお願い、そして新しい動きが始まっています。

皆様から届けられた支援物資の数々を、植林や巡回診療の合間を利用して貧しい人々の集落を訪問して配っています。ボロボロの服を着ている子供たちが大勢いる村、学用品が足りなくて学校へ行けない子供たちがいる村、栄養失調気味の乳児に日本の粉ミルクが必要なお母さんなど。可能な限り状況を見極めて、受け取る人たちも笑顔になるように考えています。皆様からの支援物資が大切にされるように願っています。

支援物資では、**汚れモノ、冬服、使い古しの文具、期限切れの粉ミルクはお受けできません。**送る側にとって不要なモノは、受け取る側にとっても不要なモノです。どうかご理解ください。支援物資は日本の当団体事務局で専用の国際輸送箱に再梱包します。この国際輸送の費用は、皆様からの支援物資に同封されたカンパによって賄っています。**最近はこのカンパを同封して頂けないケースが増えています。**大変に申し訳ないお願いですが、このカンパが集まらなければ支援物資を現地まで送る届けことが出来ません。**支援物資を当団体の国内事務局へ送ってくださる場合は、カンパを忘れずに同封してください。**ミカン箱1つぐらいの大きさで、**1000円~2000円**が目安になります。皆様からの支援物資が、貧しい人々笑顔にしています。ご協力ありがとうございます。



支援物資を巡る新しい動き: 半身不随の青年、グリオ君が自宅前で子供服古着の露店を出しています。

グリオ君は腕のいい大工でした。2年前のある日、彼の半身は痺れて動かなくなりました。働くことができなくなり、収入を失いました。同居していた母親は、彼の世話を嫌がって逃げ出しました。グリオ君は飼い犬と一緒に、近所の人々の施しを頼って生きようになりました。普通なら気が狂いそうな状況ですが、グリオ君は冷静でした。この過酷な運命に抗うことなく、受け入れながら酷い状況を少しずつ整理しました。彼の優しい人柄は近所の子供たちを集め、勉強や薪割りを教えながらその母親たちを見方につけました。当団体を通じて多くの支援者と友達になりました。そして、同じような境遇でも不屈の精神で癌や白血病を克服した東京在住の支援者、宮川さんが毎週の彼の食事支援を続けてくださいました。しかし、グリオ君もまた不屈の精神の持ち主でした。食事支援が6か月経過したある日、彼は「こんな体でも自立した生き方をしたい。どんなことでもやるから、自立のチャンスが欲しい。」と言いました。彼の声に反応したのは、大量の子供服古着を持ってきてくれた美容師・理容師によるNGO団体ウッディチキンでした。私たちは、グリオ君の自立をサポートするために彼の自宅に子供服古着の露店を開業しました。



食事支援を受け取るグリオ君

まだ開業して数日ですが、近所のお母さんたちが気軽に立ち寄って買い物をしてきています。

グリオ君の新しい生活がスタートしています。車いすの青年が、支援物資で生活再建を試みています。ぜひ応援してください。



自宅前の露店と、店で接客をするグリオ君

NEKKOは「先住民族アエタがメガソーラーと共存するための植林事業」を実施中です。

アエタ族の居住地はピナトゥボ山の麓、道案内が一緒じゃないと辿り着けない砂漠の先、山の奥深い場所です。そんな僻地にメガソーラーが迫っています。村との距離、わずか300メートル…。今でも狩猟採集の生活をしているアエタの眼前に、無機質な現代社会の権化とも言えるソーラーパネルが広大な敷地を覆っています。その規模24ヘクタール分にもなる計画で、今も着々と拡大を続けています。本来であれば、国が認めた先住民族の先祖伝来の土地として保護されているはずの場所です。しかし、このメガソーラーを指揮しているのはフィリピン政府と中国系のディベロッパー企業で、法はアエタ族を守りませんでした。この乱開発の暴力は現在も進行中で、静かだったアエタ族の村にまで重機の音が聞こえるような状態です。

本事業ではアエタ族の生活と文化、住環境を守り、メガソーラー事業との棲み分けと平和的な共存を可能にするために、メガソーラー用地とアエタ族の集落との間、約300メートルの間に緩衝地帯となる人工林を造成しています。そこには建築用材として利用可能な上質な樹種および商品価値の高い果樹を植え、アエタ住民が森の育成に積極的にコミットするように工夫をしています。この植林活動は、アエタが現代社会を生き延びるための固有の生活領域を守り、生活基盤を整備するために最も有効なプロジェクト、それが「ピナトゥボ大噴火を生き抜いた先住民アエタがメガソーラーと共存してゆく植林支援」です。

本年度はイオン環境財団の助成を受けて3ヘクタールの緩衝林地帯を造成し、植林を続けています。



NEKKOはフィリピンの秘境、イフガオの世界遺産棚田地域でも植林をしています。

この地へ行くには往復で2日間を要します。その覚悟がある方のみですが、現場訪問をお受けしています。

イフガオは広大な棚田景観で知られた世界遺産です。ガイドブックやウェブ上で見たことがある人も多いでしょう。イフガオの棚田は、簡単に行ける場所ではありません。空路がないため陸路で片道10時間以上かけて行くことになります。ルソン島北部に位置するイフガオ州、その道中は観光にあたるモノは皆無で、ただ退屈な車中を過ごす覚悟が必要です。そのため、旅の日程に余裕がない観光旅行ではイフガオを目指す人は少なく、令和の現代でも秘境と言われています。

当団体は2000年からイフガオで植林を続けています。



急激な社会情勢の変化で若い世代が街や海外に出稼ぎに出るようになったことで、イフガオの棚田を維持することが困難な状態が続いています。生活用材と商業利用の乱伐で森は荒れ、湧水が激減して棚田の崩壊が続いています。NEKKOは、棚田を効果的に保全する方法として湧水の源となる森を再構築するべく、独自の手法で植林を始めて23年が過ぎました。我々はコロナ禍でも、休業することなく木を植え続けていました。もちろん、今もその手は休むことなく木を植え続けています。私たちの現場は世界遺産のど真ん中であり、観光客が足を踏み入れることができない地域を含みます。

そんなイフガオの秘境、NEKKOの活動現場に来ませんか？

ガイドブックを見てイフガオを目指しても、観光客が立ち入れる場所は限られています。高額な支払いを要求する公式ガイドを雇用する必要があり、棚田の内部に入ることは不可能で、ほぼ写真撮影しかできません。しかしNEKKOなら現地に精通し、地域住民とも密に連携しているので観光以上の体験が可能です。高額なガイド料も民宿も必要ありません。棚田の内部に入って植林をしたり、伝統料理や土着文化に触れることもできます。移動日を含めて最低でも4泊5日の日程が必要で、旅費は渡航費用を含まず一人7万円からになります。

フィリピン最後の秘境、イフガオの世界遺産棚田の奥の奥に行ってみませんか。

「立ち上がりたい！自由に歩きたい！」ジュエラちゃん(12歳)への予祝をお願いします！

ジュエラちゃんが8歳の時、両足がパンパンに腫れあがり、動けなくなりました。ジュエラちゃんの両方の股関節周囲の筋肉は腐り寝たきりに。命の危機を乗り越えたけど、お尻の真横の両サイドの筋肉は壊死して真っ黒になったそうです。切除しないと死ぬと言われ手術を受けました。手術も地方病院ですから、大きく切除されただけ、2年経過しても、まだ痂皮形成が不十分で薄皮の下は骨でした。手術後、ジュエラちゃんの足はどんどん縮こまって、まっすぐになる事はありませんでした。それでも助かった命です。三角(体育座り)の状態、移動しながら生きていました。

黒魔術の呪いでこうなると信じている周囲の人々、命さえ助かれればそれ以降は仕方ないと思込んでいる両親、でもジュエラちゃんはまだ12歳。歩けるなら歩きたい、立ち上がりたいと願っています。9月に出会い、そこから日本の整体師さんや医師たちからのアドバイスを受けてのリハビリ、波動治療を遠隔で受けさせていただいています。日本から施術に来てくださった



大転子の横の筋肉が欠損、両方手術で取り去られている



右はこれぐらい伸びましたが、左はもっと固まっていた。



四つん這いすらできなかったのが、骨じい施術後できるようになりました。また、足首の拘縮は取れていません。



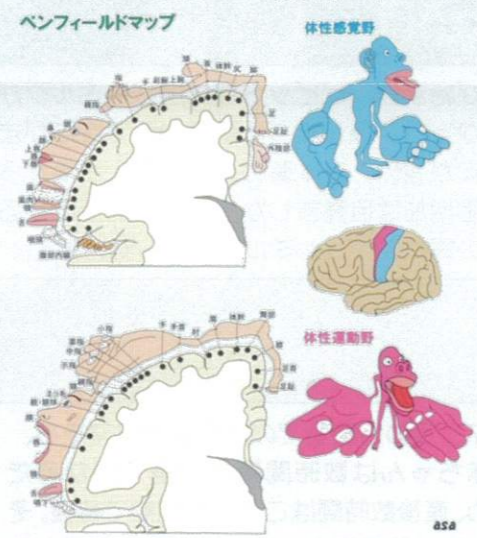
立ち上がるように予祝をお願いします！

ほねじい中山先生の施術後、左股関節の可動域が動き始めて、四つん這いで動けるようになりました。一緒にジュエラちゃんが立ち上がれるように予祝いただけると幸いです！よろしくをお願いします！

ネット情報よりも、何万年も続いた自然妊娠、自然出産、育児が間違いない！フィリピンではコロナ禍のロックダウン(世界最長の2年4か月行われた)の最中22年5月、大統領選挙が行われた。勝利したのはボンボン・マルコス。1966年から約20年間独裁政権で、86年に暴徒となった市民がマラカニアン宮殿になだれ込み、彼らに捕まる寸前、アメリカ軍の助けで亡命したマルコス大統領の息子(ボンボン・マルコス)が大統領に選ばれた。

当選した理由はネットを使った戦略、「マルコスの時代は皆幸せだった、物価を60年前に戻す」と広報するボンボンに投票した人達は「これでお米が安くなる、物価が下がる、暮らしやすくなる」と信じ切っていた。当然、財源もなくそんな低価格にできるはずもなく、ボンボンが就任したその月以降に、玉ねぎが4倍、砂糖が5倍と全てが値上がりした。それに対して、「いつになったらボンボンは値段を下げてくれるのだろうか？」という期待の声が長く続いた。市民は、騙されていたとすら感じていなかったのだ。ネットで洗脳ができる国家レベルのケースとして、日本のニュースでも紹介されている。でも、これは他人事なのだろうか？

育児書の世界を見てみよう。世界42か国語翻訳され、5千万部を売り、世界の育児に大きく影響を与えたと言われるスポック博士の育児書の中で「個人の自立を促すため、泣いても抱っこせずなかせない」、「母乳と抱っこに頼りすぎると大人になってから自立が難しくなる」と、いう主張がスキンシップ不足の原因、愛着障害、思春期以降の問題と様々な問題を引き起こしてきたと言われる。(ウィキペディアより)日本の母子手帳にも、人工乳の方が優秀だ、自立のために抱き癖をつけないという内容が採用されてきた時代もある。



自然育児学校(星野トチロー先生主催)の授業の中、歯科医の丸尾先生がカナダの脳外科医ペンフィールドが記した、脳に影響を与える部位の大きさを図式化した「ホームクロスの図」を紹介されていた。唇、舌、手がやたら大きく描かれた小人の図だ。母乳を吸う事は哺乳瓶に比べて舌の動きが複雑になる。母乳を吸い、手でいろいろ触れること、動くようになると、赤ちゃんたちはいろいろなものを口に入れて舐める。これらが子供たちを日々成長させる。複雑に考えず、あるがまま本能的に生み育ててきた母子関係は、育児困難や産後鬱などが起こりえないのは、フィリピンの母子を見ていて明確に言える。スマホを持つ限り、情報は自動的にAIが選び出す。その結果、投稿される他人のお産動画に不安になり、無痛分娩が良いと思込込み、母乳育児を最初から選ばないママたちもいる。でも、限られた情報で決めてしまっただ大丈夫なの？と感じる。母子の自然な仕組みを人類はまだ理解できていないのだから。

生まれただけの子供は母親とくっついていればいるほど穏やかだ。



生まれただけの子供は母親とくっついていればいるほど穏やかだ。



ファロー四徴症のナオミちゃん13歳、無事手術成功しました！

前回でご支援をお願いしていましたナオミちゃんの手術支援全額集まりました。そして、8月7日に無事手術を受けることができました！では、ナオミちゃんと一緒に、心臓手術の入院をご一緒してみてください。



ママがマニラから最後の手術前の診察に飛んできてくれました。手術を考えると、体を冷やすヘソ出しショートパンツはやめて欲しい、免疫UPで挑んで欲しい。経皮酸素は84%。



担当医のパーフェクト先生、心臓の状態を最終チェック、変化なさそうね、外科医のスケジュールでOP8月7日決定！



台風接近で荒れる海に小船で島に帰るナオミちゃん。びしょ濡れ必須です。手術日が決まった今、風邪をひかないで！今まで手術を支援してきた子供たち、みんなを無事に導いてくれたパイロゲンも渡しました。



マニラのハートセンターは看護スタッフがダウンジャケットを着用する冷房具合、周防氏でも寒さ対策に、支援物資の防寒具を渡さしてもらいました。

マニラのハートセンターでの心臓手術後、小児のICUでは麻酔を24時間かけたまま様子を見られます。(目覚めた時に小児は大泣きすることで、手術後の心臓の影響するからと説明を受けています)そのため、今まで手術を受けた子供たち、全員が後頭部に禿げ、臀部に発赤(循環不全による、要するに床ずれ)ができます。(何とかする気が全くないのが不思議)今までの経験を生かして、ナオミちゃんのお母さんには、背中に手を入れてマッサージすることや、手足のマッサージ、保温について説明をし、小さな湯たんぽも渡していました。術後の異常は看護師に報告すると同時に、こちらにも連絡をすぐに入れるようになどなど。(過去に、看護師が心不全を確認していても、医師に報告しないことがいくつかあったので、直接担当医に相談できる窓口を持っていることを説明)

あとは、ナオミちゃんが治りたい！って願ってくれれば大丈夫、準備ばっちり入院です！



8月5日、さあ入院手続き開始！

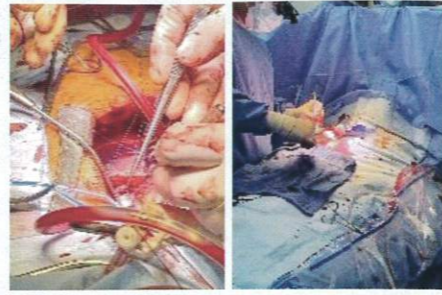
指示書通りの検査を受けて、それからPCR検査、とにかく待ち時間が長い長い。深夜に島を出て、やっと病室へ入れたのは夜でした。

さあ、ナオミちゃんの命をつなぐ手術です！

術前に手術の前の気持ちを語ってくれています。「明日、私は手術を受けます。絶対元気になります手術、全ての支援本当にありがとうございます！大丈夫です、怖れたりして無いです。元気になれるためです。本当にありがとうございます！」ナオミちゃん自身の言葉で語ってくれました。

ナオミちゃん元気に笑顔で手術室へと入って行きました。この時点でママも一時自宅へ帰らなければなりません。コロナの影響で変な厳しさが残ったままのフィリピン、入院時はナオミちゃん、ママと二人 PCR 検査が必要でした。でも、ICU から出て一般病棟ではママが付き添います。その病棟へ外から入る時には PCR 不要だった！なんじゃそりゃ！

手術中の写真は、パーフェクト先生からいただきました。心臓手術がほぼ終わり、もう傷を閉じている様子です。担当医の同級生の小児外科医（アメリカでも活躍）が今回も担当してくれました。保険が効かない分、全額負担になる手術は担当医のパーフェクト先生が外科医を選べるのです。前回の手術支援のサム君の時はかなり厳しい状況でしたが、ナオミちゃんの場合、最初からたくさん方のお祈りパワーでとってもスムーズに経過しました。術後も一切の異常なく、説明通りの経過で術後5日目に退院。こんなスムーズな経過は今までの手術支援でもありませんでした。私が術後は大丈夫だった？と質問しても、クールな表情で「大丈夫よ！」とナオミちゃんが答えました。実は「傷がいたーい、動けない〜」と ICU から戻って来た時は泣いていたそうです。きっと長く離れて暮らしていたママを見たから、素直に言えたのかも、ですね。



術後5日目、ナオミちゃん、無事退院してきました！

術後のお薬を受け取るためにクリニックによってくれたナオミちゃん。チアノーゼが改善されて、ピンクの爪に！呼吸が今までよりも楽になった、体が楽になったと言っていました。8月22日、退院後初めての健診、超音波上も心臓の傷は良好、多少の弁からの逆流はあるけど、大丈夫とのこと。入院中に他のドクターに抜糸を頼んでいたのに、2本ほど残っていました。（これもいつものことです、日本じゃありえないですね）アルコールで糸に絡んでいる血液をふやかし（この時点でアルコールはかなり沁みます）滅菌のはさみがクリニックにはないので、ディスポの注射針で切っていくという、毎度の技。引っ張りながら切るので、感覚あります。ナオミちゃん、結構なボリュームで泣きだしました・・・。小児心臓専門クリニックなので、待合の患者さんはみんな心臓に問題がある子供たち。その激しい泣き声に、待合の子供たちの表情が固まりました・・・！



手術を終えたら、差し歯をする時期を決めようと思っていましたが、歯科医からも「まだ成長期で、しかも心臓が正常になったら、急速に成長が促される、つまり頭部も成長するから、成長が終わった時に差し歯やブリッジは入れたほうが良い。」確かにそうですね。と言うことで、差し歯の分は資金凍結で保管することになりました。術後の健診は毎月から、2か月ごとになり、年明けに心電図と心エコー、現在お薬も一種類になり本当に順調に経過しています。

先日、手術支援をしてくださった美容師さんのグループ『ウッディーチキン』が、会いに来てくれました。



学校でも、目立つ存在のナオミちゃん、「私は生まれつきの心臓病でたくさんの方の支援で手術することができました、この方々が支援して下さった方の一部です！」と皆さんを連れて、各教室へと持ってきて下さったお土産渡しのお手伝い。上の学年の人たちの前でもひるまずできるあたり、将来有名なティックトッカーか、ユーチューバーになれるかもしれません。あ、でも、前歯がまだブリッジかけれていないから、もう少し成長期のピークが過ぎてからですね。また、ご報告していきたいです！ご支援本当にありがとうございました！

ミルク支援から見えるいろんな事情

ピピット君の場合

ミルク支援（遠方者には交通費も含め支援する、でないと交通費を理由に子供が放置されるので）が受けられると聞いていたのに、ロナリンは数週間支援を受けに来なかった。痩せたピピット君をスリングに入れやって来たロナリンは思考が止まっているように見えて大丈夫だろうか？と最初感じた。

1歳を数日過ぎた赤ちゃん（ピピット君）は、皮膚が湿疹でただれあちこちから汁が出て固まっていた、体重は着衣のままで4キロ。体重計の上で、恐れ慄いているが、泣き声を出す力は既にある。この子は生まれてから一度も母乳をもらう事なく、安価な成人用ミルクと重湯で生きてきた。「4キロ無いか…」と言うとロナリンは無表情で、体重計から赤ちゃんを抱きあげた。



ミルク支援開始時の様子。フィリピン製のミルクが合わず、下痢を起こし体重は横ばいが続いた。腸内細菌への支援も同時に行った。

ロナリンは、20歳。少数民族で湖に道を隔てられた山中に暮らしている。上の子はまだ2歳。長子は自宅で出産。ふたり目であるピピット君も同じように自宅で生むと疑っていなかった。しかし、予定日近くに破水から始まったお産は、数日経っても一向に進む気配が無かった。差別を受ける事も多い病院へ行くのはもっと怖い。数日放置している間に、羊水の色が変化してきた。さすがに家族も、病院へとロナリンを運んだ。

病院スタッフにロナリンは怒られながらお産した。赤ちゃんは仮死状態、一度もロナリンが触れることなく、NICUに1週間入院になった。日々、良くない母親だと病院スタッフから言われ、思考を止めて日々を過ごしたのだと言う。手元に我が子が戻った時は、汚れた羊水の母親だから、母乳をやるなど指導を受けやっとな、山の中に帰ることができた。貧困の家庭では新生児用のミルク（大人用ミルクの約3倍強の値段）は買えなかった。



飢餓状態なので眠りも浅く、揺らしていないと弱々しく顔をしかめる赤ちゃん。我が子の命を守れないという思いが積み重なり、思考が止まっていたもうどうでも良い、と思っていたと、ミルク支援で無事に成長した我が子を見つめロナリンは言う。ロナリンをはじめとする少数民族の思考はより、自然の中で生き抜く力を持ち動物的だ。お産の時、自己を否定される病院の対応の数々、触れることなく一週間取り上げられたピピット君。動物なら安全・安心がない環境下でお産はあり得ないし、産後授乳も触れる事も出来ずにいたら確実に育児放棄だ。

赤ちゃん用のミルクが買えないは貧困が理由だったが、ロナリンが出会った病院スタッフが、母性の仕組みを理解していたなら、少しでも接触させていただろうし、授乳も禁止はしていなかっただろう。でもフィリピンはまだまだ、その知識が広がっていない。ロナリンたちは問題があれば、絆サロンまで来ることになっている。体重が6キロを超え、ハイハイもできるようになった。お米がかなりの量食べれるようになって一応、ミルク支援は最後に2か月分のミルクを渡し卒業した。



ミルク支援終了時のロナリンとピピット君



支援が始まり、ピピット君に適したミルクが見つかった。少しずつ体重が増えてきたがまだ不安が強い。日本製のミルクが入ってから体重増加は目覚ましかった。何回授乳するの？の質問にずっとミルクを飲んでいると。



マニラの分娩室での産直後のママたち、赤ちゃんは数時間新生児室で預かるため、産後数時間はこういう状態で待機。その後一般病室へ、ベッドが足りないと数人でシェアする。一般的フィリピン人でもこの状態が普通。差別対象のアエタ族にはさらに厳しい。（病院内は撮影禁止のためクーリエ、ジャパンより借用）